

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2020年度)

専門分野区分	デザイン・作画技法	科目名	デッサンⅢ	科目コード	D0510A1
配当期	前期・後期・通年	授業実施形態	通常・集中	単位数	4単位
担当教員名	森田 伸	履修グループ	2K(DA/DV/MC/SC)	授業方法	演習
実務経験の内容	インテリアファブリックス会社にデザイナーとして7年間、フリーランスでグラフィックデザイナー、イラストレーターとして10年間の実務経験を活かし、デザインの基礎から実践的な課題に対して講義、指導を行う。				
学習一般目標	<p>ポートフォリオに載せるレベルの作品を描く。</p> <p>デッサンを通じてモノを美しいと思える感性を身につけ、豊かな表現ができるようになる。</p> <p>デッサンの基本的な表現のしかた(①モノをしっかり観察する目を養う②構図を考える③質感の再現ができる④形や奥行き、空間を表現できる)を学び、モチーフを正確に把握し、平面上に描き出せるようになる。</p> <p>遠近法(パースペクティブ)を理解し、立体的な表現できるようになる。</p> <p>描きたいものを楽しく自由に描き、見る人にイメージや感動を伝えることができる。</p>				
授業の概要および学習上の助言	<p>デッサンはモノ(モチーフ)をよく観ることから始まります。そのモノの印象、美しさを考えてみましょう。そしてその感じた印象や美しさを伝えるために、どのように描きけばよいかを自分なりに試行錯誤して表現していきましょう。普段からモノをよく観察するよう心がけましょう。積み重ねることではか身につきます。</p>				
教科書および参考書	<p>『パーフェクトマスター デッサン・静物』 誠文堂新光社</p> <p>『アーティストのための美術確習学』 マール社</p> <p>必要に応じてプリント配布。</p>				
履修に必要な予備知識や技能	<p>実習で各自用意するものとして、</p> <p>鉛筆(推奨:3H、H、HB、B、3B 各1本)、練消しゴム、普通のケシゴム、カッターナイフ、スケール、</p>				
使用機器					
使用ソフト					
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が達成すべき行動目標			
	1	空間表現の基本、遠近法を理解し形状を把握することができる。			
	1	鉛筆を使った陰影表現により、立体感を表現できる。			
	1	骨格や人体構造を理解し、人物表現ができる。			
	1	着彩色鉛筆などの素材・材料の使用法を理解し、筆触や色彩の効果について工夫しながら、自分らしい表現をすることができる。			
	1	講義と実習において、意欲を持って取り組むことができる。			

達成度評価	評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	総合評価割合						80		20	100
	学部 D P	1. 知識・理解					80			80
		2. 思考・判断								
		3. 態度								
		4. 技能・表現								
		5. 関心・意欲							20	20
評価の要点	評価方法	評価の実施方法と注意点								
	試験									
	クイズ 小テスト									
	レポート									
	成果発表 (口頭・実技)									
	作品	授業内で制作する作品を提出する。 課題に対する理解度・完成度から評価を行う。 ※立体表現、描きこみに特に注意すること。								
	ポートフォリオ									
	その他	授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況								

授業明細表

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1週	写真模写	講義・実習	
第2週	続き	講義・実習	
第3週	デッサンとは。視覚と知覚について。 用具道具の使い方。 遠近法、線透視法について 復習「立方体」	講義・実習	デッサンI、IIの 復習
第4週	「円柱」 楕円を通じて視点と対象の関係をしっかりと 把握した上で、形をとらえる	講義・実習	デッサンI、IIの 復習
第5週	「静物」1個	講義・実習	
第6週	続き	講義・実習	
第7週	「風景スケッチ」	講義・実習	
第8週	「石膏」足・手	講義・実習	
第9週	続き	講義・実習	
第10週	続き	講義・実習	
第11週	「人物スケッチ」 人体骨格の把握と理解。	講義・実習	
第12週	「人物デッサン」 モデル	講義・実習	
第13週	選択 ・「静物」1個もしくは2個以上 ・「石膏」足・手 ・写真模写（各自写真を用意）	講義・実習	
第14週	続き	講義・実習	
第15週	続き	講義・実習	